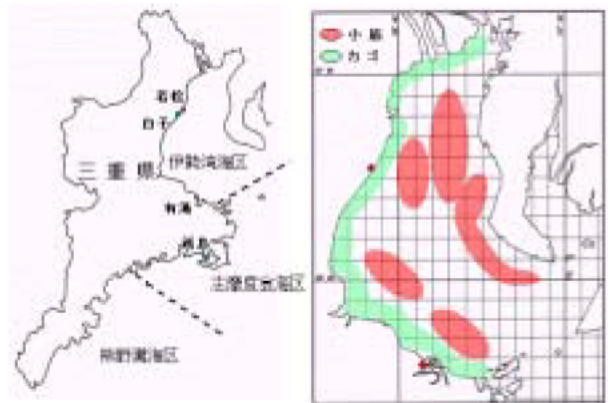


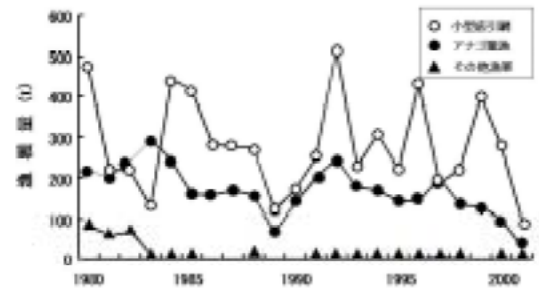
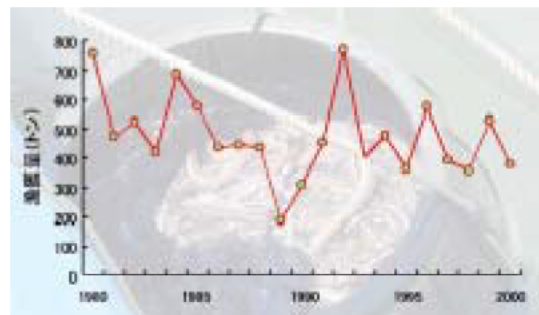
マアナゴに関する研究

マアナゴは三重県では主に伊勢湾内で操業する小型機船底曳網漁業やアナゴ罎漁によって漁獲されています。マアナゴは不思議な魚で、小さいときはレプトセファルス幼生と呼ばれる透明で柳の葉のような形をしており、1～3月に外洋から伊勢湾内に来遊します、これらは湾内で姿を変え、水族館や図鑑などで目にするマアナゴ本来(?)の姿となります。また、謎の多い魚で、どこに産卵場があるのかまた、外洋から伊勢湾に来遊してから漁獲されるまでの生態についても十分わかっていません。

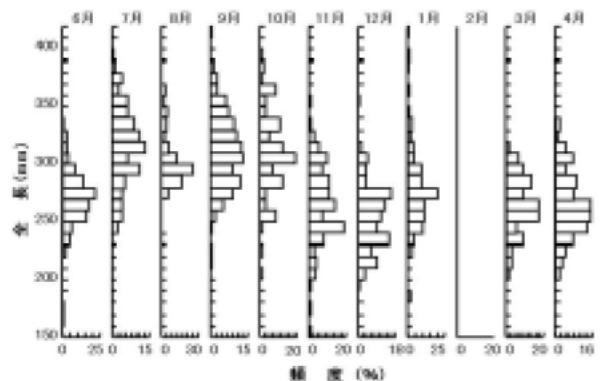
マダイやトラフグ、ヒラメなどは種苗生産技術が確立され、資源の維持・増加を目的に種苗放流が行われていますが、マアナゴについては種苗生産技術は確立されていません。そのためマアナゴの資源を維持したり増加を図るためには資源管理を行うことが必要とされています。伊勢湾産マアナゴは近年漁獲量が大きく減少しており、平成14年に国の定めた資源回復計画の対象魚種となりました。この計画において小型機船底曳網漁業では漁獲努力量の制限や10月における25cm未満の小型魚の水揚げ禁止といった資源を守るための取り組みが講じられています。しかし、アナゴ罎漁については現在、回復計画の対象漁業となっていないことから資源管理への取り組みは一部の地域に限られており、広域的な取り組みはなされていません。資源開発管理グループでは、伊勢湾産マアナゴの総合的な資源管理手法を提言するために各種の漁業調査や基礎生態調査を行っています。



三重県における操業海域と主な漁場



三重県におけるマアナゴ漁獲量の変化



全長組成の月変化(伊勢市有滝地区小型底曳)

